

麻雀のススめ

飄

々

広報委員

藤村 智之

麻雀は 4 人のプレイヤーがテーブルを囲み、数十枚から百枚あまりの牌（パイ）を引いて役を揃えることを数回行い、得点を重ねていくゲーム。ゲーム終了時の得点の多寡によって勝敗を決める（Wikipedia より）。

麻雀を嗜む医者はどれくらいいるのだろうか？結構おられるのではないかな。

元公務員だった私の父は現在 82 歳であるが、若いころから続けていた麻雀を今も仲間と月 1 回続けている。私が幼いころも、たまに友人を自宅に招いては、深夜までジャラジャラと音を立てて麻雀に興じていた。私は意味もわからず、父の傍で様子を眺めていたが、皆の楽しそうな表情が印象的であった。

麻雀のルールを覚えたのは、中学生のころ。麻雀牌を買った友人から誘われたのをきっかけに見よう見まねで始めた。高校生になり、麻雀仲間とは距離をおいたが、部活をやめて時間ができたのを契機に、再び誘われるようになった。

そして、大学に進学し、山口市の教養キャンパス時代に将棋同好会に入部すると、そこで麻雀好きが複数人いて、週末の徹夜麻雀を繰り返した。

十数年前に柳井市の周東病院に赴任していたころ、私が麻雀ができるのを知ると、院内 PHS から麻酔科の T 先生の大きな声が金曜の夕方、「藤村！今夜空いとるか？麻雀やるから集まれ！」と響くようになった。かくして病院の官舎の空き部屋を拝借して、放射線科の K 先生、脳外科の F 先生、外科の I 先生、看護師の S 君ら麻雀好きのドクターと 1 看護師が集まって、主に週末に麻雀

をするようになった。

麻雀は遊びといえども、一つのコミュニケーションツール。私は、他科の先生方に患者を紹介する立場であり、ゲームで仲良くなれば、紹介する時に少しだけ話が通りやすくなる。

その後、私が周東病院を辞して開業したのを契機に、リアル麻雀からも一旦卒業(?)した。

複数の病院勤務を経験したが、同じ病院内にあればどの麻雀好きが集まったことも空前にして絶後かも知れない。

字数が余ったので、プロ麻雀界について書こうと思う。

現在、プロ麻雀団体には主に 4 つの団体がある（日本プロ麻雀連盟、日本プロ麻雀協会、RMU、最高位戦プロ麻雀協会）。それぞれに、強い雀士が所属しているが、ここ 10 年ほど前から女流雀士の活躍が目立ってきている。

私が最員にしている女流雀士は、二階堂瑠美・亜樹姉妹プロ、茅森早香プロ、東城りおプロ、黒沢咲プロ、高宮まりプロ、魚谷侑未プロなどである。いずれもアイドル顔負けの美人揃いで麻雀も普通の男は震え上がるほど強い。近ごろでは、瑞原明奈プロ、伊達朱里紗プロという、憎らしいほど若く強い女流雀士が登場してきた。

ところで、プロ麻雀界とプロ将棋界の決定的な違いは、プロ団体数である。プロ麻雀の 4 団体に対し、プロ将棋棋士団体は日本将棋連盟の 1 つしかない。

やはり、どのような競技においても複数の団体があつてこそ、内部での健全な切磋琢磨があり、

健全な活動や運営ができると思う。

しかしながら、今の将棋連盟は、数年前にプロ棋士将棋ソフト不正使用疑惑騒動（不正疑いの時点で、出場停止処分が対象棋士に下った）や、最近ではマスクをつけずに対局をしたら、即反則負けになるなど、行き過ぎた対応が外部から見ても問題だと思う。

同じことは国技の相撲にも言える。日本相撲協

会 1 つしか団体がないため、昔から八百長相撲とかの問題が絶えないのである。元横綱貴乃花あたりが、日本相撲連盟なんて立ちあげてくれたら、相撲がより面白くなるのではと妄想している。

日医 FAX ニュース

2023 年（令和 5 年）1 月 27 日 3105 号

- マスク不要論、各医師会に不安
- 「ゾコーバ」に高額薬ルールを初適用
- 身近な感染対策の見直し、専門家で協議
- 中医協公益委員、笠木映里氏を提案へ

2023 年（令和 5 年）1 月 31 日 3106 号

- コロナ 5 類、医療体制方針は「3 月上旬」
- 医療逼迫の緩和策、「積極的に検討を」
- 治験促進センター、廃止後も存続
- インフル定点報告、沖縄が 38.77 で突出

2023 年（令和 5 年）2 月 3 日 3107 号

- かかりつけ医機能報告、認定制度でない
- 特例措置、「医薬品供給問題」が背景に
- ゾコーバ薬価、複数の比較薬で算定へ
- コロナ 5 類移行に向け感染対策を支援

2023 年（令和 5 年）2 月 7 日 3108 号

- かかりつけの制度、登録・認定ではない
- 基幹病院等の医師派遣「適切な判断を」
- 新興感染症の対応案「理解」の声が大勢
- 自宅療養者の健康観察・医療体制を調査
- インフル定点報告数、沖縄 41.23 で突出

2023 年（令和 5 年）2 月 10 日 3109 号

- 日医・知事会、5 類移行で共同声明
- 5 類移行後も「必要な支援継続を」
- コロナワクチン、次の接種は秋冬に
- 中医協公益委員に笠木氏、国会が同意

2023 年（令和 5 年）2 月 14 日 3110 号

- マスク緩和も、医療機関受診時は着用を
- 5 類移行後は「インフル定点」基本に
- 新機構、政府の「強いガバナンス」下に
- インフル定点報告数、沖縄 47.18 で突出

2023 年（令和 5 年）2 月 17 日 3111 号

- 「外形的に事実を確認するもの」
- トルコ地震で 500 万円の支援金
- 短期滞在入国者「民間医療保険」加入を
- 来月 1 日から「子ども予防接種週間」
- コロナ四半期ごと「過去 1 年の販売額」で判断

2023 年（令和 5 年）2 月 21 日 3112 号

- 「資格確認書」無償発行、有効期限 1 年
- 予防計画の基本指針、議論は 3 月以降に
- 報酬特例等は「3 月上旬めどに検討」
- ヘルパンギーナ、過去 5 年比かなり多い
- インフル定点報告数 12.91、最多は福井